

## 積雪寒冷地における地域ITSの取り組み

### - 2002 PIARC SAPPORO ITS SHOWCASE の概要 -

城戸 寛 高宮 則夫 正岡 久明(\*)

札幌市建設局土木部道路課, CE サービス(\*)

北海道札幌市中央区北1条西2丁目

Tel:(011)211 2617 - Fax:(011)218 5137 - e-mail:hiroshi.kido@sapporo.city.jp

### 要 旨

人口 180 万人、北方圏の中核都市として成長してきた札幌市は、滑りやすい雪氷路面や地吹雪などによる視程障害など、降雪量が 5 m にも達する冬期間における積雪寒冷地特有の道路環境課題を抱えている。

その対策として、現在、ITS を導入した高度な情報提供や安全走行支援など効率的な冬期道路マネジメントに向けた調査研究に取り組んでいる。

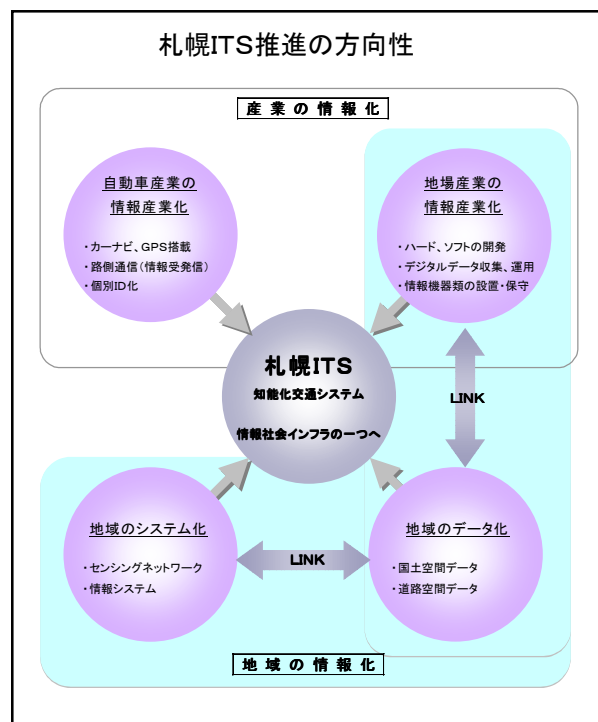
2002 年には、PIARC 国際冬季道路会議やワールドカップサッカーなど国際的なイベントの開催が決まっており、札幌における地域ITSの成果として、「2002 PIARC SAPPORO ITS SHOWCASE」を世界に向けて発信する準備を進めている。

### 札幌市におけるITS推進の方向性

札幌におけるITS（情報化）は、市内の交通、市民生活、そして、産業に大きな効果が期待できる社会的インパクトの大きい新たなインフラストラクチャーであり、戦略的な推進が求められている。

一定水準の都市施設整備が整いつつある現在、今後、地域における道路管理者として求められることは、施設の効率的な管理・運営、施設のメンテナンス、利用者効用の最大化などマネジメントの高度化である。

そして、マネジメントを実行するうえで、必要なものは地域情報のデータ化及びシステム化であり、ITSの推進による高度な「地域マネジメント」への転換である。



札幌のＩＴＳ（情報化）は、道路・交通の知能化によって、地域社会の発達を支える情報インフラとなるとともに、地域の情報化を構築する自体が、地場産業の活力を育てる可能性を有する社会システムとなると考えている。

したがって、札幌のＩＴＳ（情報化）は、交通の高度化、市民生活の快適化、地域産業の活性化などにも影響を与える「地域発達システム」として位置付けられる。

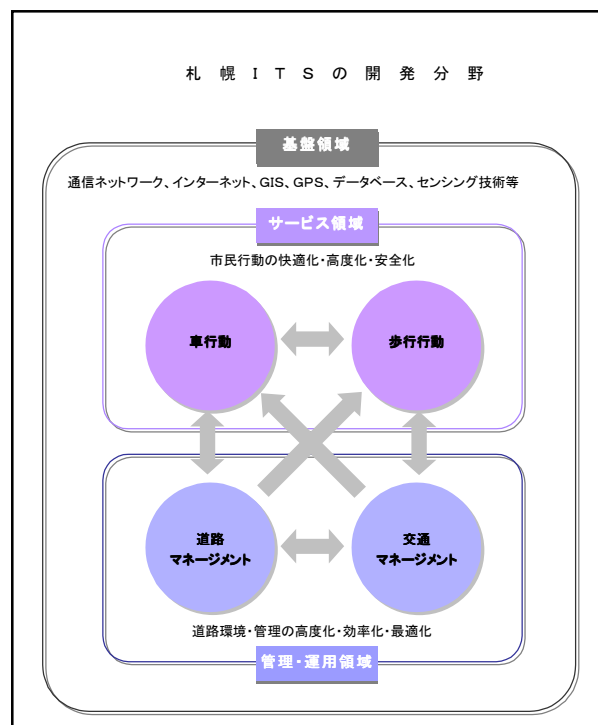
## 札幌市におけるＩＴＳ推進の開発分野の設定

札幌市が検討しているＩＴＳの開発分野は、「サービス領域」、「管理・運用領域」に大別されるが、各領域は密接に関連し合うことから、総合的な推進が必要となる。

基盤領域は、ＩＴＳを推進する上で、基礎技術・核となる技術領域であり、札幌市として独自開発を進める必要は低く、デファクトスタンダードを見定めた上での活用となるであろう。

サービス領域は、ＩＴＳの効果が市民に対して影響を与える領域であり、この領域の推進にあたっては、社会的便益や合意形成が重要であると考えている。

また、管理・運用領域は、ＩＴＳ技術を道路マネジメントに活用する領域で、費用対効果を踏まえた上での政策的な投資が求められる。

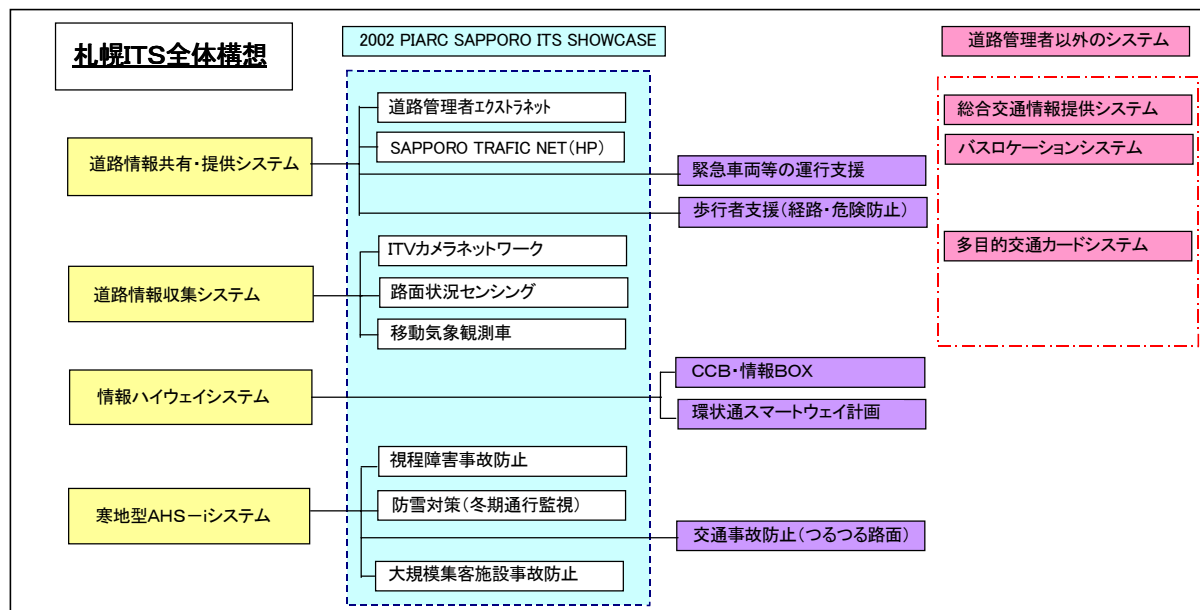


## 2002 PIARC SAPPORO ITS SHOWCASE

2002 年の PIARC 国際冬季道路会議は、札幌の取り組みを国際的にアピールできる好機であり、札幌ＩＴＳのリーディングプロジェクトとして、ショーケースを位置付けている。

プログラムとしては、道路管理者が主体で実施できるシステムをベースに考えており、道路マネジメント、特に、冬期間の高度化、効率化をメインテーマにし、「冬・安全・情報」をキーワードに検討が進んでいる。

具体的なシステムとしては、道路交通情報の収集・提供システム及びＡＨＳ - iを取り入れた寒地型事故防止システムなどで、PIARC 札幌大会の運営システムとして、シャトルバスローケーションシステムや多目的交通カードシステムの導入についても検討を進めている。



札幌ITSシステム全体構想図

## おわりに

札幌におけるITS（情報化）の推進は、「北の理想都市」を実現し、豊かな未来社会を構築する歴史的意義を秘めている。札幌発展の過程を俯瞰すると、社会動向・情勢と合致した都市づくりが政策的になされてきた結果、今日の180万都市「札幌」があることがわかる。

そして、現在は21世紀の安定型成熟社会への対応を考える大きな節目であり、情報化はその役割を担う最も重要なコンセプトであろう。したがって、今、求められるのは、「情報」というコンセプトを活用して、過去の都市構想に匹敵する都市ビジョンを描くことであり、このことが、豊かな未来社会「北の理想都市：札幌」の実現を飛躍的に促進するものと確信している。札幌にとって、ITSは、まさにそのためのリーディングプロジェクトになると考えている。

